

2015 年度 東京大学 前期 地理

第 1 問 自然環境と人間活動

出題範囲	植生・土壌, 環境問題, 農牧業, 林業, 工業概論, 地形図
難易度	★★★★☆
所要時間	24 分
傾向と対策	設問 A は, 地形図から人間活動の変化を読み取る問題。土地利用の変化を大局的にとらえ, 自然的観点, 社会的観点から考察する必要がある。こうした問題では, 水や産業が話題にされることがほとんどである。類似の問題を演習することで地形図問題の考え方を身につけよう。設問 B は植生, 林業, 農業に関する問題。いずれも基本的な知識で解くことができる。

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい地名を青字で記載した

《字数について》

東京大学二次試験地歴科目で用いられる 30 字詰め原稿用紙にもとづき, 「1 行=30 字」と換算した
解答の冒頭にある設問番号も文字数に含んでいる

英字・算用数字は「1 マスにつき最大 2 文字」書くことを前提として計算した

例 800 年の場合

80	0	年
8	00	年

1200 年の場合

12	00	年
----	----	---

ASEAN の場合

AS	EA	N
----	----	---

解答例

設問 A

- (1) 台地東部は扇央に位置し水が得にくいため, 輸出用の生糸の原料となる蚕のえさの桑を生産する桑畑に, 低地は天竜川や扇端の湧水があり水利がよいため, 主食用の米を栽培する水田に利用された。(90 字・設問番号含む)
- (2) 西天竜水路の建設によって, 水路より標高の低い東部の地域で水が得やすくなり, 台地の一部では桑畑から水田に変化した。(56 字・設問番号含む)
- (3) 中央自動車道開通により交通の便がよくなったことに加え, 低地では堤防の整備, 人口増加, 米の生産調整により水田が住宅や工場に, 台地では養蚕の衰退により桑畑が工場やゴルフ場に変化した。(90 字・設問番号含む)

設問 B

- (1) A - ツンドラ, B - 針葉樹林, C - 落葉広葉樹林, D - 常緑広葉樹林
- (2) 低緯度地域は高度によらず気温の年較差が小さく乾季がないため落葉をもたらす乾燥がなく, 冬季のみ低温になることはないから。(60 字・設問番号含む)
- (3) B は, ロシアでは平地のタイガにみられるが, 日本では急峻な山地に広く分布するため, 木材の生産コストが高くなるから。(57 字・設問番号含む)
- (4) 十分な休耕により地力を回復させる伝統的な焼畑にかわり, 大規模農園用の伐採や休耕期間の短い大規模な焼畑を行っているため。(60 字・設問番号含む)

設問 A

- (1) 難易度: ★★☆☆☆

解答例

台地東部は扇中央に位置し水が得にくいいため, 輸出用の生糸の原料となる蚕のえさの桑を生産する桑畑に, 低地は天竜川や扇端の湧水があり水利がよいため, 主食用の米を栽培する水田に利用された。(90 字・設問番号含む)

解説

地形図から高度別に卓越する農地利用を読み取り, それが卓越する理由を考える問題。地形図を題材にした農地利用の問題は 2011 年度第 1 問にも出題されているので参考にしたい。農地利用は水の得やすさがポイントになる。一般に, 周りより標高が高い地域は水が得にくく, 標高が低い地域は水が得やすい。高燥低湿と覚えておこう。

まず自然的理由をみていこう。地形図を見ると台地東部は扇状地の扇中央に位置しているとわかる。扇中央は砂礫が厚く堆積しているため水はけがよく, 水は伏流水となって地下を流れるため涸れ川(水無川)となりやすい。よって地上では水が得にくく, 水はけのよい場所での栽培が適している桑畑が卓越した。逆に扇端では伏流水が湧き出してくるので水が得やすく, 集落が立地することも多い。扇端と河川の間位置する低地では, 扇端で湧き出してくる水に加え, 付近を流れる天竜川の豊富な水も利用できるため, 水田が卓越する。

次に社会的理由を考えよう。1916 年頃, 日本は軽工業が盛んで, その主力輸出品目は生糸であった。生糸を生み出す蚕は桑の葉を食べる。それゆえ, 水利がよくない地域では桑畑が広くみられた。日本人の主食である米は古くから重要な農産物であり, 水を得やすい地域ではもっぱら水田がみられた。

- (2) 難易度: ★★☆☆☆

解答例

西天竜水路の建設によって, 水路より標高の低い東部の地域で水が得やすくなり, 台地の一部では桑畑から水田に変化した。(56 字・設問番号含む)

解説

技術進歩とそれによる土地利用の変化を考える問題。1951 年の地形図をみると、**地図の右上側にある西天竜水路に着目すればよい**と気づくだろう。水路の整備により、水路の東側の地域は水が得やすくなり、土地利用は**桑畑から水田へと変化**している。**圃場整備**の進展について言及してもよい。台地の東部では基盤の目状に農道が整備され、稲作がより容易にできるようになったことが読み取れる。

前問と本問の類題としては、東大地理 2011 年度第 1 問設問 B が挙げられる。この問題は地形図で沖積平野を題材に、土地利用の特徴とその変化を扱っている。

(3) 難易度：★★★★☆

解答例

中央自動車道開通により交通の便がよくなったことに加え、低地では堤防の整備、人口増加、米の生産調整により水田が住宅や工場に、台地では養蚕の衰退により桑畑が工場やゴルフ場に変化した。(90 字・設問番号含む)

解説

地形図から土地利用の変化を読み取り、その理由を考える問題。地形図より、低地では水田から住宅地や工場に、台地では桑畑から工場やゴルフ場に変化したとわかる。双方の変化に共通する要因は**中央自動車道の開通**である。大都市へのアクセスがよくなり、工場が多く立地するようになった。また、観光需要も高まり、ゴルフ場などの娯楽施設も建設され、第三次産業向けの土地利用が拡大した。

中央自動車道以外の要因についてもみていこう。低地では、堤防を整備して河川の氾濫の危険性が少なくなったことにより、住宅地が拡大した。この背景には**人口増加**による住宅需要の高まりや、米の消費量の減少に伴う生産調整により、水田の縮小がある。台地では桑畑が縮小し、工場建設が進められている。戦後の人件費の高まりから日本では**軽工業**は衰え、それに代わり**重化学工業**や**ハイテク産業**が盛んになった。

設問 B

(1) 難易度：☆☆☆☆☆

解答

A - ツンドラ, B - 針葉樹林, C - 落葉広葉樹林, D - 常緑広葉樹林

解説

植生についての基本的な問題。標高と緯度から地域の植生を考える。まず、一般的な植生分布の特徴をおさえておこう。**低緯度地域は気温の年較差が小さいため常緑樹がみられる一方、中高緯度地域は気温の年較差が大きく、気温が低い時期に葉を落とす落葉樹がみられる**。さらに高緯度になると、外気によって樹木の温度が奪われるのを防ぐ目的で葉の面積を小さくした**針葉樹**がみられるようになる。それ以上の高緯度地域は、低温で植物が生育可能な期間が短いため、夏の間のみ蘚苔類や地衣類が生える**ツンドラ**がみられる。

それでは選択肢をみていこう。湿潤な地域の植生とあるので、**ステップ**は削除できる。D の植生は北緯 40 度付近までみられているため、熱帯気候のサバナ気候にみられる**サバナ**は該当しないとわかる。よって、D には**常緑広葉樹林**が該当する。C から A まではそれぞれの植生がみられる地域の平均気温を考えれば、C は**落葉広葉樹林**、B は**針葉樹林**、A は**ツンドラ**となる。

(2) 難易度：★★★★☆

解答例

低緯度地域は高度によらず気温の年較差が小さく乾季がないため落葉をもたらす乾燥がなく、冬季のみ低温になることはないから。(60 字・設問番号含む)

解説

低緯度地域に落葉広葉樹林がみられない理由を説明する問題。少し難しいが、指定語句をヒントに解答を組み立てていこう。(1)の解説ですでに述べたが、低緯度地域は気温の年較差が小さく、冬季の気温低下がはっきりと表れない。そもそも樹木が落葉するのは寒さや乾燥の中で生き延びるためであるから、冬季の気温低下や乾季がない低緯度地域で落葉樹林がみられないのは当然である。

わざわざ問題文で垂直分布とことわってあるから、高度についても触れるべきである。低緯度地域でも標高が高ければ気温は低くなる。そのため、「低緯度地域は冬季に低温となることはないから」とするのは不適當である。冬季だけ低温になるような地域がないということを記述したい。

(3) 難易度：★★★★☆

解答例

B は、ロシアでは平地のタイガにみられるが、日本では急峻な山地に広く分布するため、木材の生産コストが高くなるから。(57 字・設問番号含む)

解説

ロシアに比べ、日本の木材生産が少ない理由を考える問題。図 1 - 4 を見ると、B は北緯 50～60 度の地域では低地にみられ、北緯 30～40 度の地域では標高 1,000m 以上で生育するとわかる。このヒントを利用したい。実際、ロシアの針葉樹林はシベリアの平地に広がるタイガで広くみられる。タイガは針葉樹林の純林であるため、林業に適しているといえる。一方で、日本の針葉樹林は山岳地域にみられる。急峻な山地に分布しているうえ、樹種が多く木々の密度も高いため、木材の選定作業や搬出がタイガ地域に比べて容易ではない。それゆえ、日本では伐採や運搬にかかる費用がロシアに比べて高く、木材生産があまり行われていないのである。このほか、社会的要因としては高い人件費や林業従事者の高齢化・減少が挙げられる。

字数に余裕がなく、すべての要素を解答に含めることはできないので、図 1 - 4 から読み取ることができる標高の違いに絞って解答しよう。

(4) 難易度：★★★★☆

解答例

十分な休耕により地力を回復させる伝統的な焼畑にかわり、大規模農園用の伐採や休耕期間の短い大規模な焼畑を行っているため。(60 字・設問番号含む)

解説

焼畑農業をはじめとする東南アジアの熱帯雨林の利用の変容について、基本的事項を問う問題。伝統的な焼畑は地力を回復させるために十分な休耕期間を設け、伐採、火入れを行っていた。しかし、近年では生産拡大を目的に休耕期間が短縮され、大規模な火入れが行われている。そのため、地力が十分に回復せず、土壤破壊が進行

している。また、天然ゴムや油やしなどの商品作物の大規模農場開発のため、貴重な熱帯雨林が伐採されている。こうした理由で、東南アジアの森林面積は年々減少している。一度消失した熱帯雨林を再生することは非常に難しく、熱帯雨林保護は急務といえよう。

(來住直哉, 後藤尚文)

2015 年度 東京大学 前期 地理

第 2 問 貿易

出題範囲	貿易, 経済, 農牧業
難易度	★★★★☆
所要時間	25 分
傾向と対策	設問 A はアフリカ, 設問 B は日本を中心として, 対外関係や各国の地理的条件を踏まえた解答が求められる貿易の問題。設問 A は, センター試験レベルのアフリカ各国についての基本的知識があり, 国際関係についておさえていれば容易に解答が可能な問題である。設問 B については, 見慣れない生鮮野菜の貿易統計を既存の知識に結びつけて対応する高度な能力が求められており, 難しい問題の部類に入るだろう。東大に特有な思考力を求める問題であり, 過去問演習によって初見の図表に慌てず対応する能力がついていたかどうかで得点を決めたいだろう。

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい地名を青字で記載した

《字数について》

東京大学二次試験地歴科目で用いられる 30 字詰め原稿用紙にもとづき, 「1 行=30 字」と換算した解答の冒頭にある設問番号も文字数に含んでいる

英字・算用数字は「1 マスにつき最大 2 文字」書くことを前提として計算した

例 800 年の場合

80	0	年
8	00	年

1200 年の場合

12	00	年
----	----	---

ASEAN の場合

AS	EA	N
----	----	---

解答例

設問 A

- (1) A - モロッコ, B - 南アフリカ, C - ナイジェリア
- (2) A 国は経済的結びつきが強い旧宗主国など近隣諸国に軽工業品を輸出し, B 国は豊富な鉱山資源を世界中の工業国に輸出している。(60 字・設問番号含む)
- (3) 経済が石油に依存するため, 国際市場価格の影響を受けやすく不安定で, 政情不安によって工業化が進まず経済格差も著しい。(58 字・設問番号含む)
- (4) アフリカは, 人口増加や経済成長のために安価な製品の需要が高まり, 中国がインフラ整備などを通して関

係を強化しているため。(60 字・設問番号含む)

設問 B

- (1) (ア)たまねぎ, (イ)まつたけ, (ウ)ジャンボピーマン(パプリカなど)
- (2) A は広大な土地があり農村人口が多く, 通年で大量生産が可能で, B は日本に近く, 鮮度が求められるウを集約的に生産するため。(60 字・設問番号含む)
- (3) 低緯度に位置し年中温暖なメキシコ, 南半球に位置し日本と季節が反転する C は両者とも日本の端境期に生産と輸出が可能のため。(60 字・設問番号含む)

設問 A

- (1) 難易度: ★★☆☆☆

解答

A - モロッコ, B - 南アフリカ, C - ナイジェリア

解説

アフリカ 3 国の輸出入相手上位国と貿易額の表から, 国を特定する問題。輸出品目から国名を特定する問題は東大で頻出であり, 2014 年度第 3 問など, 多様な視点から問われることが多い。主要貿易相手国がどのように決定されるのか, センターレベルの基本的な知識で解答できる。まず A 国についてだが, 貿易相手国の上位がフランスとスペインであり, A 国がアフリカにあるということを考えると, **地理的な距離が近く, 旧宗主国のフランス, スペインとは強い経済的結びつきがあるモロッコ**だとわかる。B 国と C 国については輸出・輸入額からも情報を得てみよう。B 国は輸入・輸出額ともに大きく, 市場規模が大きい国と考えられる。これで南アフリカ共和国と推測することが可能だ。一方, C 国は大幅な輸出超過となっている。これは C 国が資源大国であり, 輸出額の大部分がその資源によるものだと考えられる。3 国のうちナイジェリアは石油, 南アフリカ共和国は金やプラチナなど鉱山資源が主な輸出品目であるが, B 国は**輸入相手国にサウジアラビアが入っている**ので, **石油を輸入している**と考えられる。よって, B 国は南アフリカ共和国, C 国は石油輸出で大幅な輸出超過となっているナイジェリアといえる。統計データを読み取る訓練を重ねた受験生なら, 難なく対応できる問題である。また, ナイジェリアの石油生産から派生した問題として, ビアフラ内戦についてもおさえておきたい。これは, **ニジェール川**河口の円弧状三角州にあるポートハーコート油田をめぐる起こった民族紛争である。ちなみに, 石油収入に支えられているナイジェリアの GDP はアフリカ最大である。また, ナイジェリアの石油資源埋蔵量は 2016 年時点で 50 億トン(世界 11 位)であり, OPEC にも加盟している。

- (2) 難易度: ★★☆☆☆

解答例

A 国は経済的結びつきが強い旧宗主国など近隣諸国に軽工業品を輸出し, B 国は豊富な鉱山資源を世界中の工業国に輸出している。(60 字・設問番号含む)

解説

A 国と B 国の主要貿易相手国の構成の特徴と、その背景を問う問題。(1)を答える際にきちんと統計表を読み取っていただければ簡単に答えられる。A 国＝モロッコについては、(1)でも解説したように、貿易相手国の構成国に旧宗主国をはじめとする近隣諸国が多いことが特徴である。そして B 国との比較という点で、モロッコは**低賃金労働力を用いて衣服などの軽工業品を生産し、輸出する**という言葉があるべきである。また、この問題では言及する必要はないが、リン鉱石の産出も盛んである。次に B 国＝南アフリカ共和国について考えよう。南アフリカ共和国の輸出入相手国として中国、アメリカ合衆国、日本、ドイツなど世界中の主要工業国があることについて言及しなくてはならない。さらにこれは**金、プラチナ、鉄鉱石などの鉱産資源を主要工業国へ盛んに輸出していることに起因する**ということを述べればよい。例えば、南アフリカ共和国で生産が盛んな白金は、自動車が排出する**一酸化炭素などの有毒物を無害化する際に搭載される自動車用触媒に使用される**など、鉱産資源は工業国にとって欠かせないものである。

(3) 難易度：★★★★☆

解答例

経済が石油に依存するため、国際市場価格の影響を受けやすく不安定で、政情不安によって工業化が進まず経済格差も著しい。(58 字・設問番号含む)

解説

全体の輸出額が輸入額を大幅に上回るような貿易構造を生み出している C 国の経済・社会発展上の課題について問う問題。(1)の解説で述べたように、ナイジェリアは輸出の大部分が**原油**、または**石油製品**であり、特定の生産品に外貨収入を期待している**モノカルチャー経済**の国である。

まず、経済発展上の課題について考えていこう。モノカルチャー経済の国に共通してみられる問題点を考えればよい。モノカルチャー経済は国際市場価格の影響を受けやすい。ナイジェリアの場合、原油の市場価格が国家収入に大きく影響し、国際的に原油安になると国家財政に大きな支障をきたすようになる。実際、国際的な原油安の影響を受けて、好調だったナイジェリアの経済成長率は 2015 年には前年の 6.3%から大きく下げて 2.7%となり、2016 年にはマイナス成長に転落した。人口が急増しているナイジェリアにとって経済の停滞は国民の貧困に直結する大問題なのである。次に社会発展上の課題について。ナイジェリアは多くの民族が混在する国家であり、1960 年代のビアフラ内戦、今日のボコ・ハラムの存在が物語るように、**民族対立が顕著で情勢不安が続いている**。さらに、旧宗主国イギリスの言語である英語を習得しているかなどの差異によって社会的地位が決まり、経済格差が拡大していることも挙げられる。ほかにも、資源の偏在による民族間対立などさまざまな課題が挙げられるが、経済・社会発展上の課題について各々 1 つ論述すれば問題ないだろう。

(4) 難易度：★★★★☆

解答例

アフリカは、人口増加や経済成長のために安価な製品の需要が高まり、中国がインフラ整備などを通して関係を強化しているため。(60 字・設問番号含む)

解説

近年、アフリカ諸国の輸入相手国の上位に中国が位置し、中国からの輸入が急増している理由を問う問題。中国からの輸入量が急増しているということは、貿易によって得られるアフリカ側の利益と中国側の利益が一致しているということだ。両者の視点から解答をまとめると、わかりやすい答えになるだろう。

まず、アフリカ側の視点から考えよう。アフリカでは、近年の人口爆発や**経済成長によって工業製品などの需要が急増**している。しかし、国内でそれらを生産できる設備・技術はないため外国から輸入しなくてはならないが、安価な中国製品は、先進工業国の**高価な工業製品を買うだけの購買力がないアフリカにとって魅力的**である。

次に中国の側から考えてみる。アフリカは、世界に残された大きな市場となりうる地域の 1 つであり、中国も貿易など経済的進出によって**アフリカに対して影響力をもちたい**という思惑がある。中国は国内の経済成長によって石油や鉱山資源などが不足しており、輸入先を探している。アフリカはまだ資源開発が進んでいない地域が多く、中国が資金を出資して開発援助をすることで優先的にアフリカから資源を輸入している。例えば、**カッパーベルト**で産出された銅の搬出路として建設された**ベンゲラ鉄道**(ザンビアのカピリムポシとアンゴラのベンゲラを結ぶ)・**タンザン鉄道**(カピリムポシとタンザニアの首都ダルエスサラームを結ぶ)は、中国の援助によって建設されたものだ。現在もザンビアで産出された銅の多くが中国に輸出されている。**資源確保の点のみならず、中国は安価な自国製品をアフリカ諸国に輸出することで、経済的な影響力をもとうとしているのである。**

設問 B

(1) 難易度：★★★★☆

解答

(ア)たまねぎ, (イ)まつたけ, (ウ)ジャンボピーマン(パプリカなど)

解説

輸入金額第 1 位品目である 3 つの生鮮野菜について、国と品目を一致させる問題。東大でよく出題されるスタイルである。まず、直接問われていない、表中の国 A~C 国の判別をしよう。A 国は日本の輸入総額が一番高いことから中国であると判断できる。C 国については、**日本がニュージーランドからかぼちゃを輸入している**ことを知っていればすぐわかるが、これを知らなくても、輸入金額が増大している B 国は経済的結びつきが強まっている韓国であると推測できるだろう。

国の判別が終わったところで、品目の判別に取りかかろう。2013 年の A=中国の輸入第 1 位品目の(ア)は平均単価が安く、1997 年の B=韓国の輸入第 1 位品目の(イ)は平均単価が異様に高い。そしてオランダと韓国の 2013 年輸入第 1 位品目の(ウ)は、それら(ア)と(イ)の間にある。平均単価が安く、中国から大量に輸入している(ア)は日常的に消費される食材である**たまねぎ**、平均単価がとても高い(イ)は高級食材として知られる**まつたけ**であるとわかる。そして残りの(ウ)が**ジャンボピーマン**である。オランダで、商品単価の高い**園芸農業**がおこなわれていることなどを考えれば推測できるだろう。

(2) 難易度：★★★★★

解答例

A は広大な土地があり農村人口が多く、通年で大量生産が可能で、B は日本に近く、鮮度が求められるウを集約的に生産するため。(60 字・設問番号含む)

解説

中国からのたまねぎの輸入が増加した理由と韓国からのジャンボピーマンの輸入が増加した理由について、中国と韓国双方の自然的、社会的条件に触れつつ答える問題。(1)で正答していることが求められるうえ、60 字の中で 4 つ理由を述べなくてはならず、理由も考えにくいので、難しい問題と言えるだろう。ただ、与えられた情報を正しく運用できれば解答に至ることは可能だ。

まず、たまねぎの輸出量が中国で増加する自然的理由を考える。それは、中国には**多様な気候をもつ広大な国土があり、年間を通してたまねぎの生産が可能**であることだ。そして社会的な理由は、**農村人口が多く、安価な労働力で大量生産が可能**ということである。

次に、日本へのジャンボピーマンの輸出量が韓国で増加する自然的理由を考える。韓国に、農業を行うことで利点となるような国土や自然環境は考えつかないので、日本との地理的な近接性を挙げるべきだろう。直接出題と絡まないオランダを表に載せていることも、**オランダと韓国の共通点と違いを考えてほしい**という出題者の意図がくみ取れる。韓国の利点は日本との距離が圧倒的に近いことである。最後に社会的理由について考える。これは、**韓国で日本向けのジャンボピーマンの施設栽培が集約的に行われている**ということが理由である。思いつくことはとても難しいが、ジャンボピーマンはたまねぎとは異なり新鮮さが重要で単価が高い。そのため、韓国は輸送園芸に近い形で日本向けの生産を行っていると考えればよい。園芸農業、輸送園芸についての知識があり、これと似たような形をとっているはずだと推測できれば、解答に至れる。ジャンボピーマンの生産用地は小さいが、多額の資本が投入され集約的に生産されるので、単価が高くなるのである。以上の点をまとめれば解答が可能だ。

類題としては、東大地理 2014 年度第 3 問設問 B(2)が挙げられる。この問題は、スペインには世界的に知られている自動車ブランドがないのに自動車が輸出第 1 位となっている理由について答える問題である。一見関連がある問題のようにはみえないが、韓国のジャンボピーマンもスペインの自動車生産も、賃金水準の格差を前提として、輸出国と輸入国との距離が短いという点で同じである。低賃金労働力を用い、関税や商品の鮮度・輸送費の観点から、それに適合した国どうして貿易が活発に行われるという論点は、東大では最頻出である。

(3) 難易度：★★★★☆

解答例

低緯度に位置し年中温暖なメキシコ、南半球に位置し日本と季節が反転する C は両者とも日本の端境期に生産と輸出が可能のため。(60 字・設問番号含む)

解説

国産のカボチャに加え、メキシコ産とニュージーランド産のカボチャが輸入され日本の市場で取引される理由を問う問題。論述形式の地理の問題を解き、演習量をこなして思考力をつければ解答は容易に発想できるだろう。**カボチャは、年中北海道で生産できるわけではない**。北海道で生産できるのは 7 月から 12 月に限られ、国内だけでは 1 年中カボチャを供給することは不可能である。しかしメキシコやニュージーランドは、日本と収穫時期

が異なる。両国の立地に注目してほしい。メキシコは北回帰線上に位置し、国土の大半が亜熱帯気候に含まれ年中温暖である。よって1年を通じ栽培が可能である。ニュージーランドは南半球に位置するため、季節が日本と反転する。よって北海道でカボチャが生産できない時期に生産が可能なのである。カボチャに限らず一部の農産物は、日本で生産できない時期に他国の農産物を輸入することによって、日本の市場に通年その農産物が供給されるよう工夫されているのである。カボチャの生産は、小さな島国であるトンガやニューカレドニアでも盛んであり、日本での需要があるのもこうした理由による。農業分野で使用する^{はざかいき}端境期という用語は、ある農作物の収穫期と収穫期の間の時期のことで、供給が少なくなる時期のことである。

類題としては、東大地理 2009年度第2問設問 A(5)が挙げられる。これは、宮崎県や高知県の温暖な気候を生かし、出荷時期を旬の時期とずらした促成栽培を行うことで、比較的高価格で野菜や果実を出荷していることについての問題である。

本問や上記の類題は、端境期に作物を輸出することが作物に付加価値を与え、農家にとっても利益につながるということをおさえるのによい問題である。

◆Check!!

トンガのカボチャ

トンガでは、もともとカボチャを食べる習慣がなかった。しかし、日本でもニュージーランドでも栽培できない時期にカボチャを販売するため、日本の商社がトンガに進出したことをきっかけにトンガでもカボチャ栽培が行われるようになった。現在ではカボチャはトンガの主要輸出品目となっている一方、工業化が進んでいないためカボチャに依存するモノカルチャー経済化が進行している。

(西田航大, 來住直哉)

2015 年度 東京大学 前期 地理

第 3 問 日本の都市と社会の変化

出題範囲	人口, 都市, 経済, 産業概論
難易度	★★★☆☆
所要時間	19 分
傾向と対策	人口に関わる資料を読み取りながら日本の都市と社会の変化について考える問題である。設問 A では, 大都市市域内を 3 つに分け, 2 種類のグラフを用いて比較している。設問 B では, さまざまなデータが見慣れない表現方法のグラフで提示される。設問 C では, 三大都市圏を 2 種類のデータを用いて比較する。普段あまり目にしないグラフが出てきても慌てることなく, 各データの特徴をつかんで解答を作れるように, 日頃からデータを読み取って自分が持っている知識と結びつける練習をしておこう。

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい地名を青字で記載した

《字数について》

東京大学二次試験地歴科目で用いられる 30 字詰め原稿用紙にもとづき, 「1 行=30 字」と換算した

解答の冒頭にある設問番号も文字数に含んでいる

英字・算用数字は「1 マスにつき最大 2 文字」書くことを前提として計算した

例 800 年の場合

80	0	年
8	00	年

1200 年の場合

12	00	年
----	----	---

ASEAN の場合

AS	EA	N
----	----	---

解答例

設問 A

- (1) ア - C, イ - A, ウ - B
- (2) 職住近接で労働集約的な中小工場が多かった A では, 産業構造の変化に伴い工場労働者が流出し, C では中枢管理機能の集中による住環境の悪化や地価の高騰によって, 郊外に人口が流出したため。(90 字・設問番号含む)
- (3) バブル崩壊後地価が下落し, 住宅供給型の再開発が進んだため。(30 字・設問番号含む)

設問 B

- (1) A - ④, B - ①, C - ⑥, D - ③, E - ②, F - ⑤
- (2) 市町村合併が盛んな時期であり, 市区町村数が減少したから。(29字・設問番号含む)

設問 C

- (1) 大阪市は名古屋市に比べ中枢管理機能の集積度が高く市域が狭いため郊外の住宅地開発が進み, 市外からの通勤者が増加したから。(60字・設問番号含む)
- (2) 地価高騰を受け, 遠距離帯の郊外で宅地開発が進んで通勤者が流入したが, 1995年以降は団塊世代の退職や, バブル崩壊による地価下落, 都心の再開発により都心に人口が流出し, 通勤者が減った。(90字・設問番号含む)

設問 A

- (1) 難易度: ★★☆☆☆

解答

ア - C, イ - A, ウ - B

解説

3つの区それぞれにおける, 人口密度の推移の特徴と職業構成の特徴の関連を考えさせる問題である。まず図3-2から, 3つの区それぞれの特徴をつかもう。

最初にアを見ると, 1965年, 2010年のどちらにおいても従業地での「生産工程等」の割合が相対的に低く, 「専門的・技術的職業」と「事務」の値が相対的に大きいことがわかるため, 業務地区である都心部だと推測できる。次にイを見ると, 常住地と従業地の職業構成がほとんど変わらないため, 通勤による移動が少ない地域だとわかる。また, 1965年の「生産工程等」の割合が大きく, その後2010年になるまでに大幅に減少していることから, 高度経済成長期に工業が発達し, その後衰退した地域であるとわかる。この2点から, イは職住近接型の住工混在地域である。最後にウを見てみよう。ウでは, 常住地よりも従業地のほうが「専門的・技術的職業」と「事務」の割合が少ない。よって, ウは郊外住宅地であり, ウに常住する人が「専門的・技術的職業」「事務」として都心部に勤務していると推測できる。

さらに, これらを図3-1に当てはめていこう。まずAを見ると, 高度経済成長期(1955~1973年)に人口密度が大幅に増加し, その後減少している。よってAは, 高度経済成長期の初期に, 工業の発達に伴い人口が流入したが, その後の産業構造の変化による打撃を受け人口が流出した住工混在地域であると推測できる。次にBを見ると, 1950年の時点では人口密度が低かったが, 高度経済成長期に大幅に人口密度が増加し, その後も減少していない。よってBは, 高度経済成長期の大都市圏への人口流入に対応するために開発された郊外住宅地であると推測できる。そして, Cを見ると, 高度経済成長期の初期は人口密度が微増しているが, その後減少し, 近年になって再び大幅に増加している。これは, 高度経済成長中の向都離村の傾向に伴い一時は人口が流入した

ものの、その後の**地価高騰**や**都市環境の悪化に伴い人口が流出**し、近年の**都心回帰現象**により**再び人口が流入**するという、都心の人口推移の特徴と一致する。よって、C は都心部であると推測できる。これらのことから、A と C、イと A、ウと B が対応することがわかる。

なお、本解答では、図 3 - 2 から検討を始めたが、必ずしもこの順番で考えていく必要はない。解答にたどり着くまでに考える順番の、ほかの例をもう 1 つ挙げておく。まず、図 3 - 1 を見て、C が都心部である、ということだけ見当をつけ、A と B は保留にする。次に、図 3 - 2 を見てア・イ・ウについて見当をつける。そして再度図 3 - 1 に戻り、A・B・C とア・イ・ウの対応関係を検討する。このように複数のグラフを対応させる問題では、先に片方のグラフの見当をつけてから次のグラフを見る、というような解き方に固執することなく、わかるところから見当をつけていき、見るグラフを適宜換えながらグラフどうしの関連性を考えるとよい。

(2) 難易度：★★★★☆

解答例

職住近接で労働集約的な中小工場が多かった A では、**産業構造の変化に伴い工場労働者が流出**し、C では**中枢管理機能の集中による住環境の悪化や地価の高騰**によって、**郊外に人口が流出したため**。(90 字・設問番号含む)

解説

住工混在地区と都心部の人口推移を、それぞれ問う問題である。まず、住工混在地区である A では、高度経済成長期前半に、職住近接かつ労働集約的な中小工場が多く集まったが、その後の**産業構造の変化**、国際競争力の低下、公害の深刻化などにより、工場の閉鎖や地方・海外への移転が進み、**工場労働者が転出**したため人口密度が低下した。次に、都心部の C について考えると、高度経済成長期からいわゆるバブル経済の時期にかけて**中枢管理機能の集中が進んで地価が高騰**し、業務的、商業的土地利用が増えた。また、同時期に郊外でのニュータウン建設など住宅開発が進み、都市の常住人口が郊外に流出する**ドーナツ化現象**が起こり、**職住分離**が進んだ。

なお、本問と次問の類題としては東大地理 2009 年度第 3 問設問 C が挙げられる。この問題は東京都心と郊外の人口移動についてのもので、時代の変遷に応じてどのような人口増減がみられるようになったのかを問う問題である。より基礎的な知識を求められているので、完答することが求められる。

(3) 難易度：★★★★☆

解答例

バブル崩壊後地価が下落し、住宅供給型の再開発が進んだため。(30 字・設問番号含む)

解説

都心再開発、都心回帰現象に関する問題である。1990 年にバブル経済が崩壊して以降、日本では平成不況となり、バブル経済期に上がり続けていた地価が下落した。この地価下落によって都心部でも住宅地域としての開発が可能になり、高層マンションの建設など、住宅を供給する再開発が進んだ。これにより都心に人口が流入し、定住人口が増えた。これを**都心回帰現象**という。都心再開発、都心回帰現象に関連して、**ジェントリフィケーション**など基本用語の確認のほか、イギリスの**ドックランズ**や日本のみなとみらい 21 での**ウォーターフロント開発**、フランスの**ラ・デファンス**地区での副都心の建設などについても復習しておくとうい。

ちなみに、ジェントリフィケーションとは、都市再開発で、都心部または都心部に近い場所に高所得者向けの住宅を建設したことにより、都心部に富裕層が流入する人口移動現象のことである。これにより、犯罪率低下など治安が向上した一方、かつて都心部に住んでいた低所得者層の人々が都心部を追い出され、コミュニティが分断されるなどの問題も発生した。

設問 B

(1) 難易度：★★★★☆

解答

A - ④, B - ①, C - ⑥, D - ③, E - ②, F - ⑤

解説

人口や経済状況の変遷を考える問題。いずれも特徴がはっきりとしているので、落ち着いて1つずつ考えていこう。

- ① 都心部では、1990年代前半までは地価の上昇や生活環境の悪化を原因として、郊外への人口流出がみられた。こうした人口流動は**ドーナツ化現象**と呼ばれる。1990年代後半以降は都心部の再開発により、**都心回帰**がみられるようになった。Bが当てはまる。
- ② 多摩市では、郊外住宅地である**多摩ニュータウン**の建設により人口が爆発的に増加したが、老朽化、高齢化が進み、バブル経済が終わりを迎えた1990年代以降、人口はほぼ横ばいになっている。Eが当てはまる。
- ③ **夕張市**は全国屈指の炭鉱の町であった。しかし、1970年代以降、エネルギー革命や外国産の安い石炭輸入量の増加の影響を受けて炭鉱は次々と閉鎖され、基幹産業を失った夕張市の人口は激減した。2007年には財政破綻を経験し、現在でも膨大な財政赤字を抱えている。Dが当てはまる。
- ④ 全国の高齢者率は、戦後は継続的に増加している。日本は世界で最も高齢化が深刻な国の1つである。Aが当てはまる。
- ⑤ 全国の完全失業率は、高度経済成長期やバブル景気など好景気の時期には低い。その一方でバブル崩壊後の1990年代後半からは急激に増加した。Fが当てはまる。
- ⑥ 1市区町村あたりの人口は、人口増加だけではなく、市区町村数が減少すると増加する。戦後は、昭和の大合併と平成の大合併の2つの時期に1市区町村あたりの人口が急激に増加した。Cが当てはまる。

以上の特徴を掴むことができれば、それぞれに対応するグラフを選ぶのは容易である。(2)を解答する前提となる問題であるから、ミスのないようにしたい。

本問の類題としては、設問 A と同じく、東大地理 2009 年度第 3 問設問 C が挙げられる。

(2) 難易度：★★★★☆

解答例

市町村合併が盛んな時期であり、市区町村数が減少したから。(29 字・設問番号含む)

解説

特定の 2 つの時期に 1 市区町村あたりの人口が増加した理由を考える問題。2 つの時期に不自然なほど 1 市区町村あたりの人口が増えていることから、単純な人口増加ではなく **市区町村数の減少**に着目すればよいと気づきたい。

市町村の大合併は明治、昭和、平成の 3 度行われた。1950 年代は**昭和の大合併**，2000 年代は**平成の大合併**の時期に合致する。このことから、これらの時期は**市町村合併が盛んであり、市区町村数が減少した結果、1 市区町村あたりの人口が大きく増加した**といえる。

本問の類題としては、東大地理 2016 年度第 3 問設問 B(3)や、2009 年度第 3 問設問 B が挙げられる。市町村合併をテーマとした問題は、東大では頻出である。

設問 C

(1) 難易度：★★★★☆

解答例

大阪市は名古屋市に比べ**中枢管理機能**の集積度が高く**市域が狭い**ため**郊外の住宅地開発**が進み、**市外からの通勤者が増加した**から。(60 字・設問番号含む)

解説

大阪大都市圏と名古屋大都市圏の、通勤者の構成に関する問題。予備知識で解くことは難しい。表からしっかりとデータを読み取って考えていこう。

表のデータから、大阪大都市圏は中心市からの通勤者の割合が少なく、中心市以外からの通勤者の割合が多いことが読み取れる。逆に、名古屋大都市圏は中心市からの通勤者の割合が多く、中心市以外からの通勤者の割合が少ないとわかる。この対比を、与えられている使用語句を用いて説明する。**中枢管理機能**の集積度が高い地域には**経済規模**が大きい都市が多い。経済規模が大きい主要都市では、**中心市周辺の広い範囲で住宅地開発がなされ、郊外の人口が非常に多くなる**。それゆえ、中心市以外からの通勤者が多くなる。これらの特徴はまさに大阪市に当てはまる。実際、大阪市は**梅田**周辺に**中枢管理機能**が集積し、大阪市の郊外住宅地の開発が進められた。**千里ニュータウン**がその代表例である。もちろん名古屋市でも郊外の住宅地開発は行われたが、大阪ほどの規模ではなかった。

表 3 - 1 より、大阪市は名古屋市に比べ面積が小さくなっていることがわかる。**市域が狭い**ことも、市外からの通勤者が多くなっている原因と考えられるだろう。

以上のことをまとめて書くと、解答例のようになる。字数の制限があるため、大阪市の特徴を取り上げながら両市の違いを記述したい。

(2) 難易度：★★★★☆

解答例

地価高騰を受け、**遠距離帯**の郊外で**宅地開発**が進んで**通勤者が流入**したが、1995 年以降は**団塊世代の退職**や、**バブル崩壊による地価下落**、**都心の再開発**により**都心に人口が流出**し、**通勤者が減った**。(90 字・設問番号含む)

解説

郊外地域の通勤者数の推移のデータから、郊外住宅地化の変遷を考える問題。指定語句が大きなヒントになる。**ドーナツ化現象と都心回帰の過程**をうまくまとめて説明したい。

グラフから、1990 年代初頭までは郊外人口が増加していたことがわかる。この時期までは、日本の経済成長やバブル景気によって地価が上昇していた。そのため、**都心部の地価の上昇や住環境の悪化を受け、郊外地域での宅地開発が進んだ**。マイホームを求めて団塊世代を中心に都心部から郊外地域へ多くの人が転居し、中心市以外からの通勤者が増加したのである。

ところが、バブルが崩壊すると地価は大きく下落した。また、都心部では再開発が進められ、タワーマンションや新しいオフィスビルが立ち並ぶようになった。**地価の下落と住環境の改善により、1990 年代後半からは都心回帰が進んだ**のである。最近ではヒトだけでなく、大学やオフィスなども都心へ拠点を移している。さらに**団塊世代の退職**が加わって、中心市以外からの通勤者が減少していったと考えられる。

ちなみに、**団塊世代**とは、1947～1949 年の**第一次ベビーブーム**で生まれた世代であり、1995 年には 46～48 歳、2005 年には 56～58 歳である。よって、解答で「定年」という語句を使うのは無理があるだろう。ただ、50 代になれば退職する人も徐々に出てくると思われるので、解答では「団塊世代の退職」と表現した。

(上東菜弥・來住直哉、吉田七海統)